

# 「原発問題と福島の今を考えるつどい」

—放射能の基礎知識・再稼働・福島の今—

東電福島第一原発事故から3年6ヶ月。事故は依然終息できていません。メルトダウンした核燃料棒は、すべてタンクを突き破り地下に落下し、放射能は相変わらず放出されています。地下水は、海に流れ込み潮の流れで茨城・千葉の海岸を汚し東京湾の海底は非常に高い放射能で汚染されています。

それにも関わらず、安倍内閣は、原発の輸出や再稼働に積極的です。

「つどい」では、原発事故の放射能の拡散や被ばく状況を知り、原発事故に対する疑問点や不安なことなどを出し合い、これからどうすべきかなどを交流したいと思います。

(特に乳幼児を抱えるお父さん・お母さん歓迎します)

9月27日(土)午後1時30分～4時30分

(午後1時より受け付けます)

会場 「にいざほっとぷらざ」4F

(志木駅南口前、志木駅改札口とつながっています)

※ 駐車場は志木駅南口(有料)

講師 埼玉県立高校物理教諭

関根一昭さん

—参加費は無料です—

- 【第一部】1:30～2:15 放射能の基礎知識&被ばくの怖さ
- 【第二部】2:30～3:15 再稼働と福島の今!!
- 【第三部】3:30～4:30 質問応答&意見交流

## 自分で判断・考える力を



秩父高校理科教諭 関根一昭さん(63)に聞く

東京電力福島第一原子力発電所事故から3年5カ月。県立秩父高校の理科(地学)教諭関根一昭さん(63)は、原発問題に関する高校生への授業や市民への講演を続けている。「賛否を問題にするのではなく、自分で判断して考える基礎的知識を身につけてほしい」と語る。

—原発や放射能について、よく考えている生徒がいて、高校生は普段から考えている一方、学ぶ機会が少なくて、関心を持っていない生徒も多い。「事故が起きた原因や、いつまで被害が続くかなら良いのかわからない」と

いう生徒もいれば、受験に関係ないからと考えることをやめてしまう生徒もいる。

「原発や放射能について、よく考えている生徒がいて、高校生は普段から考えている一方、学ぶ機会が少なくて、関心を持っていない生徒も多い。『事故が起きた原因や、いつまで被害が続くかなら良いのかわからない』と



## 原発問題、高校生や市民に講演

せきね・かずあき 1950年、秩父市生まれ。新潟大学理学部で地質鉱物学を専攻。県立小栗野高校、秩父高校などで理科教諭を務め2011年定年退職。現在は秩父高校で再任用教諭。「これだけは知っておきたい 高校生のための原発の基礎知識」(04年)など著書多数。高校生や市民団体などへの原発講演は、事故後の3年間で200回に。14年4月から秩父ユネスコ協会会長。

「全国的な学校に配られた冊子ですが、生徒に渡しただけの学校も多いでしょう。地面に落ちた放射性物質(セシウム)の量や避難指示区域など色で示した図は視覚的にわかりやすい。不十分な面もありますが、

「全国的な学校に配られた冊子ですが、生徒に渡しただけの学校も多いでしょう。地面に落ちた放射性物質(セシウム)の量や避難指示区域など色で示した図は視覚的にわかりやすい。不十分な面もありますが、

「本日は危険なのに国がごまかしている。風評ではなく現実」

「『福島の人には避難して大変で助け合いましょ』」

「『原発無しも生活できるはず』」

「『原発にも長所があるから使われていくはずだ』」

「『原発にも長所があるから使われていくはずだ』」

「『原発にも長所があるから使われていくはずだ』」

「『原発で地元は潤うのでは?』とか『原発の構造は?』とか。講演のたびに聞かれ、原発事故に対する基礎的事実が意外に知られていないと感じてきました。そうした疑問に丁寧に答えようと思ったのが教材集です。これには秩父市内で放射線量が高かった排水溝や植え込みの写真とデータを載せました。秩父に放射能汚染されている場所があると知らなかったと驚く生徒もいます。一部は市報に出ている数値ですが、評価して説明しなければ実感が伝わりにくい。広く役立ててもらえれば」

「『原発で地元は潤うのでは?』とか『原発の構造は?』とか。講演のたびに聞かれ、原発事故に対する基礎的事実が意外に知られていないと感じてきました。そうした疑問に丁寧に答えようと思ったのが教材集です。これには秩父市内で放射線量が高かった排水溝や植え込みの写真とデータを載せました。秩父に放射能汚染されている場所があると知らなかったと驚く生徒もいます。一部は市報に出ている数値ですが、評価して説明しなければ実感が伝わりにくい。広く役立ててもらえれば」